

5 スポーツコミッション事業

コーディネーター それでは、本日最後の事業となります、事業番号5、スポーツコミッション事業につきまして、審議いたします。市民委員、市民モニター、傍聴の皆様には、お手元の資料、52 ページをお願い致します。また、市民委員、市民モニターの皆様には、本事業の意見シートをお配りしました。後ほど記入お願いいたします。それでは、経済局より、事業の概要について説明をお願いいたします。簡単に、出席者の自己紹介を行ったのち、説明を始めてください。

所管局 経済局、観光政策部長、吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

観光施策課長の石原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

同じく、観光政策課、近藤と申します。よろしくお願いいたします。

所管局 それでは、私からですね、事業の概要を説明させていただきます。失礼して、着席して説明させていただきます。こちらに、映し出されていますパワーポイントの資料につきましては、皆様にお配りしていますですね、追加資料の1ページ目から掲載してございますので、そちらも合わせてご覧いただきながらお願いいたします。

それでは、まず、スポーツコミッションという言葉はですね、お聞きになって、どうもスポーツのここのようだけれども、一体どんなものなのかと、あまりなじみがないという方もいらっしゃると思いますので、スポーツコミッションって、一体何なのかというところを中心にどのような考え、経緯から、このような事業に取り組むことになったのか、また、どんな役割や機能を持っているのかというところから、お話をさせていただきます。

まず、事業開始の経緯でございますが、さいたま市は、サッカー、Jリーグに所属する浦和レッズと大宮アルディージャのホームタウンであるなど、スポーツに対する市民の関心も高く、スポーツが盛んなまちでございます。観光客数に占めるスポーツ観戦者の割合も高いという特徴を持っております。

このような環境のもと、平成22年4月に、さいたま市スポーツ振興まちづくり条例を制定いたしまして、生涯スポーツの振興とともに、スポーツを活用した総合的な町づくりを推進しているところでございます。また、市の重点施策を取りまとめて、平成21年11月に制定されました、しあわせ倍増プラン2009、こちらには、新たな観光客獲得のために、スポーツコミッションを創設するというのが施策の柱の1つとして、掲げられたところでございます。スポーツをする人、見る人、これを観光の視点で捉えて、地域、経済の活性化に繋げようというのが、スポーツコミッション事業の考え方でございます。

平成22年度に、事業の柱となります、基本計画を策定いたしました。そして、平成23年4月から、約半年間の準備期間を経て、昨年10月3日に、日本初となります、本格的なスポーツコミッションとして、さいたまスポーツコミッションを設立したところでござい

す。

次に、どうして経済局の観光部門でスポーツなのかということについて、ちょっとお話をさせていただきます。これまでのスポーツ振興策というのは、スポーツをより広く普及することが主な目的でしたが、これに加えて、スポーツ活動がもつ経済的産業的な側面が段々注目されるようになってまいりました。そんな背景の中で、スポーツ活動がもたらす経済効果に着目して、プロスポーツチームのキャンプの誘致ですとか、市民マラソン等の、参加型スポーツイベントを開催することで、地域経済の活性化の手段として、スポーツ振興に取り組む事例も増えてきているところでございます。

従いまして、スポーツコミッション事業というのは、素材がスポーツであるんですけれども、単に、スポーツの振興ということではなくて、スポーツをテーマとした観光行動を促して、地域経済の活性化に繋げようという取り組みでありますことから、観光部門がこの事業を担当しているところでございます。

また、大会の誘致という側面では、観光部門で、以前から取り組んでおります、例えば、国際会議を始めとする、大規模な会議ですとか、学会などを市内に誘致してこようという、コンベンション事業というの、これまでやって、取り組んできているんですけれども、この取り組みと共通する部分が多いので、互いのですね、連携によりまして、相乗効果も発揮することが出来るんじゃないかということも、観光部門がこの事業を担当している大きな理由となっております。

それでは、具体的に、スポーツコミッションとは、どんな役割と機能をもったものなのか、また、どのような実施体制のもとに、事業が行われているのかということについて、お話をさせていただきます。

事業概要説明書の54ページをお開き願います。54ページの下段のところ、さいたま市が入っちゃっていますね、さいたま、市は取ってください。さいたまスポーツコミッションの概念図でございますが、スポーツコミッションに、大きく2つの役割がございます。1つは、図の左側のほうになりますけれども、スポーツ施設の紹介をしたりですね、開催のための助成金制度、こんなものを活用しながら、大会主催者に対して、積極的なプロモーション活動を行う、大会誘致のプロモーターとしての役割、これが1つでございます。

もう1つは、主に右側のほうになりますが、スポーツ大会や、スポーツイベントの開催に必要な会場ですとか、宿泊、交通、ボランティアスタッフなどの手配、または、イベントのPRですとか、広報など、様々な準備、運営支援のコーディネートを総合的に行う、受け入れのコーディネーターとしての役割。この2つがございます。

このようなスポーツコミッションが担う役割を考えたときに、行政領域を超えて、機動的、かつ、柔軟に活動する必要があるということから、市の外郭団体であります、社団法人、さいたま観光国際協会に担当セクションを設置しまして、事業を展開しているところでございます。

続いて、スポーツコミッションの国内外での動向について、少しお話をさせていただきます

ます。事業概要説明書の 54 ページに 1 ページ戻っていただきまして、53 ページの中段のところに、他市の状況等というのがございますが、他の自治体におきましても、スポーツコミッションまたは、類似の取り組みに対する動きがございます。ただ、本格的に、今、組織化されたスポーツコミッションとしては、さいたまスポーツコミッションが、日本初ということになります。

一方、国外においてもですね、取り組みが盛んな、特に取り組みが盛んなアメリカの代表的な例では、インディアナスポーツコーポレーションという組織がございますけれども、この組織が大きな成功を収めております。この成功例や、スポーツ産業に対する関心の高まりによって、1992 年、全米スポーツコミッション協会というものが、アメリカに設立されまして、現在では、約 500 のスポーツコミッションの団体が加盟しているというところでございます。

また、ヨーロッパにおいても、スポーツを活用して都市を活性化しようという取り組みが盛んになっておりまして、スポーツ振興に、顕著な功績のあった都市を、スポーツ首都として認定する制度もございます。2005 年に、このスポーツ首都の認定を受けたオランダのロッテルダム市が、さいたまと同様に半官半民的なスポーツコミッション組織がございまして、ロッテルダムトップスポーツという組織が、精力的に活動を展開して、実績を上げているところでございます。

こういった、海外の先進的な取り組みを学ぼうということで、今月の初めに、このロッテルダムトップスポーツを訪問しまして、事業のノウハウですとか、活動状況について、直接お話を伺うとともに、さいたまスポーツコミッションとの連携協定を締結してまいったところでございます。

国内におきましても、こちら、53 ページに、資料にありますように、スポーツコミッション関西というのが、この 4 月に発足をしております。ただ、この関西のほうはですね、スポーツ用品関連企業などの経済界と大学による組織でございまして、活動内容もイベントを誘致したり、支援したりするというよりは、研究ですとか、提案をするような活動を行っておりまして、さいたまスポーツコミッションとは、ちょっと、方向性が異なるものでございます。

最後になりますが、国のスポーツツーリズム戦略について、少しお話をさせていただきます。国が定義しております、スポーツツーリズムといいますのは、スポーツを見たり、したりすること自体を旅行として捉えて、そのついでにですね、周辺を観光してもらったり、スポーツを支える、例えばボランティアの人達のような方達とも交流を含めた、新しい観光のあり方というふうに取り扱っております。観光庁では、このスポーツツーリズムというものを、今後の成長分野の 1 つとして捉えておりまして、平成 23 年 6 月に、スポーツツーリズム推進基本方針というものを定めております。その方針のですね、ポイントを整理したものが、この画面に映し出されたものでございまして、資料のほうにもございますが、ちょっと字が小さくて分かりにくいんですけども、このですね、資料の下段の左下

のところに丸が付いておりますが、そこにですね、推進に向けた基本的方針、方向というのがございますが、そのこのトップの項目に、地方公共団体などによる、スポーツコミッションの設立促進というものが、掲げられておりまして、また、この方針のですね、本文の中にはスポーツコミッションの先導的な事例として、さいたまスポーツコミッションが紹介をされております。

また、この一番下のところがございます、オールジャパンの推進連携組織、JSTA というのがございますが、これが、本年4月に創設をされまして、さいたまスポーツコミッションが、その主要なメンバーとなっております。

最後になりますが、さいたまスポーツコミッションが設立されたのが、昨年10月、発足して以来ですね、度々、他の自治体からの視察ですとか、問い合わせをいただいております。今後ですね、他の自治体などでも、積極的に取り組まれていくことになると思いますが、さいたまスポーツコミッションが、その先導役になっていければというふうに考えております。以上で説明を終わります。

コーディネーター はい。ありがとうございました。次に、行財政改革推進本部より、この事業の論点、また、審議のポイントについての説明をお願いいたします。

行革本部 はい。説明ありがとうございました。説明の中でもありましたように、日本では、初の本格的なスポーツコミッションがさいたま市でスタートしたということで、全国的にも、注目されている事業だというふうに思っております。この事業を大きく育てていくには、どうしたらいいのかという視点でですね、きょうの議論ができたらいいなというふうに思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

そういうことで、論点としましては、まず、スポーツコミッション設置後の、まだ日が浅いわけですけれども、この間の成果について、確認をさせていただいた上で、今後の展開について、これから、どのようにこれを進めるというふうにお考えになっているのか、それらを踏まえましてですね、最終的には、それが目的として、掲げられてございます、経済効果を高めるための、どれだけ高められるのかということでの議論をしていきたいというふうに考えております。以上3点でよろしくお願ひしたいと思ひます。

コーディネーター それでは、質疑に移ります。行財政改革推進本部より論点に沿って、質疑をお願いいたします。

行革本部 はい、それでは、論点1の設置後の成果についてということですが、各事業、最初に、目的について、色々確認もさせていただいているんですけども、きょう、第1番目に私、ここで確認しようと思っていたのは、スポーツ振興、なぜ観光がやる、観光政策課がやるんですかっていうお話を聞こうと思っていたんですけど、先程、パワーポイント

に追加資料の中で、ご説明いただきました。ありがとうございます。スポーツ振興、この制度がスポーツ振興という一面もありますけども、どちらかというと、経済効果を期待する制度であるということは、よく分かりました。その制度について、もう少し、何か経済性の、経済効果を上げるための取り組みがあれば、また、目的があれば、お話をいただきたいとの、それから、他市の状況、今見させていただいているとですね、このやはり、東京都も都市なども、このスポーツ振興の計画、スポーツ振興基本計画ですとか、スポーツ振興の中から、このスポーツコミッションっていうものが、計画の中に位置づけられています。それをさいたま市が先進としてですね、この振興を、敢えて、経済部門で、経済の中で進めていくということでございますので、地域経済の活性化とスポーツ振興という両面を、これ、将来的に、計画ですとか、ビジョン、こういうものを描いているとすればですね、そこらへんを簡単に、まず、最初にお伺いしたいと思うんですが。

所管局 はい。先程、ご説明させていただきましたようにですね、スポーツコミッション事業の、一義的な目的というのは、新たな観光客とか、交流人口を拡大をしていこうということで、地域経済を活性化させようというのが、一義的な目的となっております。

これまでのですね、スポーツ行政から、連想されるのは、例えば、市民の健康増進ですとか、地域スポーツの振興といった面なんですけれども、そういった側面とは異なってますね、スポーツを経済の分野に結び付けているというのが、特色でございます。ただ、誘致をした大会によってですね、市民の方々にもですね、色んな種目をご覧いただいたり、あるいは、経験したりする機会を増やすことができますので、そういった面では、スポーツ振興にも、大きく貢献出来るものというふうに考えております。

そういった意味では、スポーツ担当部局とのですね、連携っていうのは、不可欠であるというふうに考えております。例えばですね、大会の開催に合わせて、競技団体にイベントをやっていただいたり、それから、クリニックのようなものをやっていただいたりですね、そういった場合には、やはり、市のスポーツ担当部局と密接に連携を取っていかなくちゃいけないんじゃないかなというふうに考えております。

誘致支援におきましても、例えば、今年の1月に、スーパーアリーナで行われました、bjリーグのオールスター戦ですとか、3月に行われました、これは市のあれですけど、さいたまシティマラソン、それから、この8月に行われます、女子サッカーのアンダー20ワールドカップ、そういったものをスポーツ担当部局との連携によるものでございます。

一方、もう1つ、ビジョンのお話ですね。この平成22年度に策定しました基本計画の中ではですね、スポーツコミッションの使命として、新たなスポーツ観光市場の創造というものを掲げております。このことによりまして、地域スポーツの振興と、地域経済の活性化を同時並行で促進して行って、スポーツ大会の開催なら、スポーツのまち、さいたま市と、そんなようなブランドに成長をしていければいいなというふうに考えております。以上でございます。

行革本部 ただ今、これまでの成果ですとか、将来のビジョンをご説明いただきましたけれども、このスポーツコミッションの設立によりまして、さいたま市が、スポーツの盛んなまちというイメージアップに繋がっているのでしょうか。

所管局 えーとですね、先程お話ししましたように、昨年10月にさいたまスポーツコミッションが設立しまして、現在まで相当数の視察ですとか、取材などを受けております。そういった意味で、スポーツのまちの印象というのは高まっているんじゃないかなというふうに考えております。また、スポーツツーリズムの先進市というアピールも出来たんじゃないかなというふうに考えております。また、大会開催に当たってはですね、プレスリリースをするわけなんですけれども、そのプレスリリースの際に、その競技のですね、著名な方に、このさいたまスポーツコミッションの会長であるさいたま市長を表敬訪問してもらうような取り組みもしております。そういったことで、マスコミにもですね、大きく取り上げていただいたりしておりますので、そういったパブリシティの活用により、イメージアップも図られているんじゃないかなというふうに考えております。

行革本部 それじゃ、これまでの成果を踏まえまして、2点目の論点であります今後の展開について、2、3お聞きしたいと思うのですけれども、まず、今までこうやってきた、それを踏まえてですね、今年度、それから、今年度以降も含めて、どういう事業をやっていこうというふうに考えているのか、そこの展開といいますか、展望をですね、お聞かせいただきたいと思います。

所管局 はい。市長が度々口にしております、女子サッカーの聖地化ということにも、積極的に貢献していきたいというふうに、まず考えております。また、誘致するだけじゃなくてですね、自主事業も行っていくということにしておりまして、今年の秋には、さいたまーチという名前でですね、見沼田圃をコースにした、ツーデーウォーク大会、そんなものも開催する予定としております。一方で、国際大会の誘致も考えておりまして、先程、ご紹介した、そのロッテルダムトップスポーツとの連携協定もですね、国際大会を視野に入れての取り組みでございます。それから、そうですね、そういったことで、将来はスポーツするならさいたま市と言われるようなブランド化を図っていきたいというふうに考えております。

行革本部 ありがとうございます。色んな事業をこれからやっていこうということで、計画されているようではございますけれども、そういった事業を通じてですね、観光客を増やそうということで、観光客どのくらい増えるというか、増やそうという見込みを立てていらっしゃるのか、お聞かせください。

所管局 この公開審議の資料のですね、57 ページに、これ平成 24 年度の予定の一覧となっております。56 ページが 23 年度の関わった、色んなスポーツ大会イベント。右側の 57 ページが、24 年度、今年度の開催予定のイベントの一覧となっております。今後、どのくらい見込んでいるのかということなんですけども、この右側の 24 年度の予定は、5 月 28 日に開催されましたさいたまスポーツコミッションの総会の時点の資料でございまして、この時点の数字でございますので、イベント件数、誘客数とも、左側のですね、昨年の方を優に上回る見込みであるというふうに考えております。あと、結果指標をですね、一概に、誘致数、誘客数だけで判断してしまうのはどうかなというのがあります。しあわせ倍増プランでは、5 万人という目標を立てておりますけれども、数だけではなくてですね、やはり、イベントの質ですとか、内容、更に、効果を高めていくことが大切じゃないかなというふうに考えております。

行革本部 はい。ありがとうございました。おっしゃる通りに、内容っていうのは、一番大事な部分でもあろうかなと思うんですが、そうはいいまして、やはり、ある程度、この人数っていうのが、一番分かりやすいというようなことも思いますので、その辺も含めまして、いずれにしても、大事なのはですね、スタートとしては、かなり順調にスタート切れたのかなというふうに思っていますが、これを、いかに、これから継続して、事業をやっていけるのか、継続性っていいですかね、どこまで事業を、拡大していくのか、その辺の、事業の継続的な開催っていうのも、これ大事になってくると思うんで、その辺り、お考えをお願いします。

所管局 もちろん、やはり、私共も、継続っていうのは大事だろうというふうに思っています。単発のイベントだけではなくてですね、毎年開催していただけるような、そういった大会も積極的に誘致をしていきたいというふうに考えております。市のスポーツ担当部局ですとか、観光国際協会とも連携しながら、継続的な事業が、展開が図れるように進めていきたいというふうに考えております。

行革本部 関係団体と連携した継続的な事業展開、これを図っていくというのは、その通り、大事なことだと思いますので、積極的に、進めていただきたいと思います。その上で、の話なんです。関係団体っていうようなことも出ましたけど、その結果、経済波及効果というのはですね、どの程度見込んでらっしゃるのか、経済波及効果は把握なさっているのか、その辺りいかがですか。

所管局 経済波及効果につきましてはですね、これからになるんですけども、特に、先

程ご紹介した誘致するために、大会を開催をするために、助成金制度というのがあるんですけども、特にその助成金をですね、お出ししたイベントを中心にアンケート調査を観客の方々に、アンケート調査を行いまして、今後効果をですね、経済効果を測定していきたいというふうに考えております。これからというところでございます。

行革本部 そうですか。これは、これからということですが、その辺が一番大事だと思いますので、これはお答えいただかなくて結構ですけど、そこをしっかりと出していくのが大事かなと思いますので、よろしくをお願いします。

行革本部 続きまして、論点の3点目、経済効果を高めるための工夫についてですけども、事業概要にもありますように、この事業によって、観光、交流人口の拡大を図っていくということとしておりますけれども、人に来てもらって、お金を使ってもらう、そういうためには、どのような工夫をされているのでしょうか。

所管局 実際のところですね、今のところはですね、事業開始からまだ間もないということもありまして、取り敢えず、誘致出来るものは、選り好みせずですね、受け入れるというスタンスで取り組んでいるところでございます。そんな状況なんですけど、今後は、先程申し上げましたように、女子サッカーの聖地化ですとか、例えば、特定競技ですとか、シニア、ジュニアですとか、そういったカテゴリーのメッカ作り、そんなものをですね、目標に、独自色を出していければなというふうに考えております。

また、どうしても、施設でやる競技というのは、キャパシティが限られておりますので、市内の、例えば、自然や都市環境を活かしたマラソンですとか、自転車競技などの誘致も積極的に展開していきたいというふうに考えております。あとは、実績を積みながらですね、しっかりと検証しながら、経済効果を高める工夫に繋げていきたいというふうに考えております。

行革本部 はい。ありがとうございます。行革本部としてといてもおかしいですかね。私なりに考えるところでは、色んな、そういった工夫を組み合わせながら、やっていくっていうのも、もちろん大事ですし、その一方で、やっぱりドカンとですね、1つ何かあると、やはり、これは相当インパクトがある事業というのは、市民の皆さんにも知ってもらえるというようなこと、全国的にも市のイメージアップに効果的に打ち出せる。そんなイメージからするとですね、一方では、やはり、国際大会を積極的に誘致するといったこともですね、1つ、作戦と申しますか、何か、1つ大きいのをやるっていう、ターゲットを絞って。その辺りも、一方では大事かなと思うんですけども、あってもいいのかなと思うんですが、そういった計画なり、予定なり、考えというのはいかがですか。

所管局 先程、ご説明の中でも紹介したように、ロッテルダム市のロッテルダムのトップスポーツとの連携協定っていうのも、国際大会を視野に入れた取り組みなんですけれども、国際大会の開催っていうのは、おっしゃる通り、大変効果的であると思っておりますので、今関係部局や、民間企業などとも、連携を図りながら、誘致に取り組んでいきたいというふうに考えております。ただ、一方で、国際大会、確かに派手なんですけど、一見、地味に見えるような大会でも、開催期間が長いとか、経済効果に優れた国内の大会もありますので、その辺のバランスを考えながら、効果的なターゲットを、絞り込みをしていきたいというふうに考えております。

行革本部 今お話の出た、地味だけれども、経済効果を長く取れる、期間が長い大会ってあるんですか。

所管局 今のところはですね、今年度、ちょっと待て下さい。春高バレー。今年度ですね、予定しているイベントの中でも、これは地味ではないんですけど、春の高校バレー、結構期間が長い。1、2、3日間ですか。この辺が該当するのかなと思いますが、特に、今のところは、これというものは無いような状況です。

行革本部 春の高校バレーのようなものっていうのが、1日で終わらない、3日あるというのは、大分ね、随分効果があるのかなと思っています。そういうものを、地味にといいますか、着実に増やしていくっていうのは一方では大事だとは思っていますので、それはそれでいいかなというふうに思います。それを踏まえましてですね、ちょっと、最後に、私がお聞きしたいのが、スポーツ以外の、タイアップの部分ですね。お話にも出ておりましたけれども、さいたま市は、世界に誇れると思います。盆栽村っていうのがあります。それから、全国的には、マニアの方がひっきりなしに訪れる、鉄道博物館といった、そういう観光の資源があります。人形の町、岩槻、岩槻区など、色々あるわけですけども、こういった観光資源といかにタイアップして観光客を増やすのかというのも、これから、考えなきゃいけないかなと。その辺は、これから、どのように考えているんでしょうか。

所管局 そうですね、スポーツコミッションの、この事業のですね、取り組みの中にも、来ていただいた方にですね、市内の観光情報を提供して、試合の終わった後に、観光してもらおうっていうような、そういった紹介も、取り組みもやっておりますけれども。例えば、今年の3月に行われました、シティマラソンにおきまして、前夜祭イベントなどは、タイアップ効果のいい参考事例だというふうに思っております。地域経済の活性化を高めるためにも、1つの重要な要素として、今後も検討して取り組んでいきたいというふうに考えております。はい。

行革本部 ありがとうございます。細かくご説明をいただきまして、ありがとうございます。このスポーツコミッション事業につきましては、やはり気になるところは、経済効果を追求する中で、その効果測定の方法が、まだ確立していないということがありますので、この事業が、先進的な事業であって、まだ、始まって間もない。今のところ、誘致活動のほうを、まず優先して、きちっとやらないと、これが、効果を上げていくのが、なかなか見えにくいということがあると思いますけども、やはり、先程、課長さんの説明で、私も納得したんですけども、派手な事業だけが、経済効果を上げるものじゃないということが、よく分かりました。長く、着実に進めていくほうが、色んな人が来てくれて、応援とか色んな人が、長く来ていただいたほうが、経済効果があるんだってというようなことも、確かにあるのだなと。そういうことはよく分かりました。

だからこそ、その事業、なぜ、この事業を呼んだのか、誘致したのかっていうことは、その経済効果をはっきり市民にご説明が出来て初めて、その事業を呼んだ理由というのが、皆さんに納得して賛同していただけるものだというふうに考えますので、是非、効果測定のやり方、そういうものについては、是非研究を進めて、非常に大事なことだと思いますので、よりよいものにしてもらいたいと思います。これは、経済波及効果をしっかり説明できるようになればですね、市民にとっても、様々なスポーツに、これから親しめる機会が増えるわけですから、非常に、意義深い事業だと思います。ですから、成果、効果をしっかり上げていただきたいと、期待したいと思いますので、その点について、部長さんのほうからひと言、見解をお願いしたいと思います。

所管局 はい。色々ご審議いただきまして、誠にありがとうございます。説明とご質問等でですね、特に、新しい事業ということで、まだ、半年、1年満たない事業で、1人でも多く、県外、できれば海外からも、さいたま市のほうに来て、少しでも多く消費していただきたい。それをスポーツを通じて呼びたい。そのことと、先程課長が説明しましたが、それ以外に観光資源、期間があれば、大会のオプションツアーとか、そういったものも、企画していただいて、出来るだけ、さいたま市に長い時間滞在していただく。そういったことによって、経済効果っていうのは、大きく上がるのではないかなと考えます。今後、誘致プラス長い大会とか、そういったものをですね、ある程度見極めながら、また、それによつての、参加者、関係者からのアンケート調査によって、どの程度の経済効果が出たかと。数字的に、早めにお示しできるように、努力してまいりたいと思います。よろしくお願いたします。ありがとうございます。

コーディネーター 行革本部による質疑が終わりました。市民委員、市民モニターの皆様には、意見シートの記入のほうお願いいたします。これより、意見シートを記入していただきながら、市民委員の皆様からご意見いただきたいと思ひます。ご意見のある方の挙手お願いいたします。はい。後ろの方ですね。その真ん中の方ですね、右側の方。

市民委員 この事業はですね、大いにやってほしいし、東京でオリンピックを誘致しているっていうんですけども、さいたまでも、そのくらいを誘致するという意気込みでやっていただきたいんですけども、ちょっと、この中でですね、イベントの、先程から、やはり、誘客数が多いっていうのが、経済効果にあるじゃないかというお話があると思いますけど、私もそう思うんですけども、23年度の実績で、やっぱり、一番多い誘客っていうのは、さいたまシティマラソンなんですね。24年度を見るとないと。多分、まだこれは、5月28日の時点なんで、多分やるだろうと。で、やるだろうということの前提のもとに、まず1つは、さいたまシティマラソンのコースは陸連の公認コースにしてほしいと。陸連の公認コースでないと、実業団とか、ケニアの選手とか、そういう選手が出てくれないんですね。そうすると、レベルアップという意味と、観客数動員という意味では、やはり、公認コースにしないとだめだということですね。

それから、もう1つはですね、こういう大会もあるんですけども、練習環境の整備ですね。これは、一般の市民ランナーのためということではなくて、やはり、例えば、東京では、皇居の周りは、大変人気で、もう走らせるのは、逆に怪我が出るから邪魔だというくらいになっているんですけども、そういう、さいたまにそういういい環境があると。例えば、1つの例としては、クロスカントリーが出来る練習コースとか、そういうようなですね、練習環境の整備を整えるようなことがあって、その中から、さいたまで開催する大会で、さいたま市出身の人間、あるいは、在住、在勤の人間が優勝するとかいう、この間は、川内くんが招待で優勝になっていましたけど、そういうことがあれば、経済効果が更上がるんじゃないかと思えますんで、是非お願いしたいんですけど。

所管局 はい。色々ご提案ありがとうございます。まず、シティマラソンにつきましては、おっしゃるようになりますね、まだこの時点では、まだ開催日程が確定しておりませんでしたので、ここには掲載しておりません。そういった、今、誘致を仕掛けていているところ、間もなく、開催が決定されるもの、そういったものはですね、この中には入っておりませんので、まず、それは、おっしゃる通りでございます。それから、シティマラソンを、公認コースにというお話なんですけれども、私は、その辺は、詳しくよく分からない部分ありますが、今、シティマラソン、ハーフマラソンでございまして、これフルマラソンにならないと、もしかして、そこで認定コースにならない。あ、大丈夫なんですか。あー、そうなんですか。はい。それ、ご提案は、ちょっと検討させていただきたい。スポーツ部門がですね、所管しておりますので、そちらと、また協議をしまいたいというふうに考えております。

それから、練習環境の整備というお話を伺って、確かに、さいたま市には、見沼田圃という広大な緑地空間がありますので、何か、練習コースとして、何かできたらいいなというふうに、今ちらっと頭の中に浮かんだんですけども、その辺についても、ご提案を

ですね、また検討させていただきたいと思います。以上でございます。

コーディネーター はい。一番後ろの方。

市民委員 今後の展開のことにに関してなんですけれども、市が考える今後の方向性といいますが、スタンスについて、開催イベントの誘客数という点で見ると、単純に数を増やそうと思えば、さいたま市は珍しい2つもプロサッカーチームがあるところですから、そこに1枚のるとか、あとは、これで、この表で見ると、UFCですね、格闘技の大会でたくさんの集客が見込まれると。それ以外にも、格闘技はスーパーアリーナよく使っていますので、そういう人数がたくさん集まるようなところとやっていくのか、あるいは、一方で、昨年ですと、セパタクローの大会があります。そのような、マイナーといったら失礼ですけども、マイナーなスポーツに力を入れていますという方向性に行くのか。あるいは、先程のマラソンじゃないですけども、市民参加を力入れていますっていう方向性に行くのか、何かの形で、単純にやりたいといったから応援しますではなくてですね、積極的に打って出るといったときに、どこに焦点を合わせるのかっていうのをお聞きしたいというのが1点と、あともう1点なんですけれども、事業概要のところの、コーディネーターに関する部分で、宿泊交通の手配というふうにありますけど、これは、選手関係者の宿泊交通ということなのか、あるいは、そこにたくさん来るお客さんも含めて、総合的に宿泊交通の斡旋とかですね、あるいは、飲食店の割引サービス、先程の行革本部のお話の中にもありましたように、さいたま市民としましては、岩槻の人形を見てほしいし、盆栽も見てほしいし、浦和のうなぎも食べてほしいと思うんですけども、そういったものとは、どのように関係するのかを教えてくださいませんか。

所管局 はい。まず、1点目のその方向性でございますけれども、平成22年度に策定をいたしまして、基本計画の中では、今後の戦略的な取り組みとして、3本の柱をあげております。1つはですね、先程ご紹介しましたように、例えば、紹介した女子サッカーの聖地化のようなですね、ある特定の競技の聖地づくりというのが1つ。それから、ターゲットを明確にした誘致活動ということで、ジュニアですとか、シニアですとか、そういったカテゴリーをターゲットにした方向性、それからもう1つは、自然都市環境を活かしたエコロジカルスポーツの振興ということで、例えば、サイクリングの競技ですとか、マラソンの競技ですとか、ウォーキング大会ですとか、そういったものを、この3本はですね、戦略の方針として掲げているところでございます。

それから、2点目のコーディネートの関係ですけども、基本的には、いらっしゃる選手ですね、宿泊ですとか、交通の手配というのを基本としておりますけれども、一方で、例えばマラソンに参加して、泊まっていただくようなサービスを市内のホテルのほうにですね、そういうパックを組んでいただくような働きかけですとか、それから、市内の観光

スポットを巡っていただくような観光スポットの紹介ですとか、そういったことに取り組んでいきたいというふうに考えております。

コーディネーター はい。他の委員さん。真ん中の方。

市民委員 はい、すいません。ここです、今年から、第1回目、さいたまーチが開催されると聞きまして、私も非常に有り難いなと思っていたんですけども。実は、東松山のスリーデーウォーク、私もこれで会社辞めてから3年間参加したんですけども、あれを行いますと、非常に、まず、ボランティアの方っていうか、主催者の方が大勢いなくちゃできないし、これは経済効果というよりは、あれですけども、私も朝、5時何分ですか、武蔵野線の一番電車に乗るわけですよ。武蔵浦和。そうしますと、それで、満席じゃありません。要は、座る席がもうなくなっちゃうんです。皆座っちゃうんです。それで、北朝霞で乗り換えて行くと。その東武電車も立っている人もかなりいるような状態なんです。もちろん、あれは、3日間で8万とか9万の参加者らしいんですけどもね。そして全国から来ています。これは非常に経済効果もありますし、観光PR、東松山出身、私は30キロコースに参加しているんですけども、そうしますと、かなり遠くまで行くわけですよ。

今回は、何キロコースされているかは、それは分かりませんが、これは、非常に観光PRにもなりますし、場合によってはですね、スーパーアリーナとか、あるいは、サッカー場をですね、一部通すとかですね、ここがサッカー場の中ですよとか見させるのも、外部から来た人はですね、こうなのかというのが出てくるだろうし、宿泊もですね、全国から来ますから、外国の人も結構いました。あそこは。声もかけたりなんかして、お互いしましたけども、そういう点ではですね、非常に参加者も多くて、非常にいい大会になるんじゃないかと思います。

ボランティアの方、あるいは、地元の方、太鼓が出たり、あるいは、出店いっぱいありますし、試食コーナーもあります。場所によりましては、もちをその場でついておりましてですね、あれ、どれくらい作るんだろうと思うくらい。どんどんサービス出しているわけですよ。ここまでやるのかと思ひまして、参加する人はですね、もう知っているわけですよ。きょうの何日目のここ行ったら、これがあるよ、これがあるよ、これがあるよと。きょうのコースはね、ほとんど何にもないよと。正直なところですよ。これは、私もそれ聞いてびっくりしたんですけどね。現実にその通りでした。そうかと思えば、また一般市民の方ですね、自分の家の庭先で、コーヒーをどんどんサービスくれたりね。そういうふうにはですね、市民の方だとか、沿線の方が盛り上がるようなですね、大会を是非期待しておりますので、よろしくお願ひいたします。

所管局 ありがとうございます。ご提案ありがとうございます。私もですね、この春に、飯能のツーデーマーチに参加してきました、あ、こんな色んな取り組みをやっているんだ

なというのが、色々参考になりました。色々ご提案ありがとうございました。

コーディネーター ご提案ありがとうございます。じゃ、一番手前の。

市民委員 1点だけお願いをしておきます。最近、テレビとかラジオ、新聞ですね、マスメディアで、さいたまスーパーアリーナの有用性について、色々そこに来た方の意見を聞いたりですね、そういうのが、非常に頻繁に報道されています。私が言うまでもなく、観光政策課の方々は、お骨折りいただいていると思いますが、折角さいたま市にあるんですから、あのさいたまスーパーアリーナね、色々民間が入ったり、芸能プロダクションが入ったり大変でしょうけど、あそこをですね、会場とする施策といいますか、行事、イベントをですね、招へいしていただければ、色々な面ですね、何か経済効果にも繋がるんじゃないかと思います。1点だけでございます。

所管局 はい。ご提案ありがとうございます。

コーディネーター はい。じゃあ、ピンクの方。

市民委員 私も1つだけ、先程の山崎本部長さんもおっしゃっていましたが、是非、何ていうんですか、効果ですね、最終的には経済的な効果を狙っているんだと思いますんで、是非、費用対効果っていうか、効果をですね、金額の面、どのぐらいの効果あるんだろうかというようなのをですね、是非アサンプションで出していただければなと思います。当然まだ、全国的にどこでもやっていないというようなお話ですんで、その計算方法とか何とかっていうのも、独自のやり方で結構だと思いますんで、こんな数字になりそうだというのをですね、是非出していただければなと思います。やっていただいている所管の部門が経済局ですんで、是非、数字で示していただければと思います。

所管局 今年度中にはやりたいと思っていますんで、よろしく願いいたします。

コーディネーター 隣の方。

市民委員 すいません。ちょっと僕がこの事業についてよく分からないんですけども、具体的に成功例ということで、ロッテルダム、インディアナということがあるようなんですけども、実際にその成功例自体もちょっとよく分からない。実際に、その実施方法についても、補助金で進めるとは思うんですけども、民間のプロの、民間の業者がやっても、今プロ野球、Jリーグそうですけど、自社で黒字に転化するのは難しい状況で、経済の波及もあるんですけど、実際、採算の、民間でやるのかとか、そういった着地点ですよ。最終

的な何年後かの。そういったものを具体的に示していただければなと思います。結構難しいと思いますので、頑張ってください。

所管局 ありがとうございます。

コーディネーター はい。それでは、市民委員の皆様ありがとうございます。時間もありますので、取りまとめを行いますので、係員が意見シート回収させていただきます。後ほどいくつか発表いたします。それでは、市民委員の皆様のご意見取りまとめをしている間にですね、市民モニターの皆様からご意見いただきたいと思います。ご意見のある方。はい。こちらの右のワイシャツの方。はい。

市民モニター すいません。またシティマラソンの話題になってしまうんですけども、私、昨年このちょうど、この公開審議で、この内容に当たりましてですね、自分もいつも出ているもんですから、意見言わせてもらったんですけど、そのときも、市で10周年っていうことで、数千人から1万5000人集めるの大変なんで、色んなイベント的なものを考えるっていうのは大変ですよと言ったと思うんですけども、それがですね、今回のこの3月のイベントについては、私も大成功だったと思っています。日曜日の前の土曜日から、プレイベントもありましたし、当時もそうなんですけど、その理由の1つは、やっぱり、先程も意見ありましたけど、さいたまスーパーアリーナをね、会場にしたっていうことが非常に大きいと思うんですね。駒場は、我々市民にとってはいいんですけども、今、ランニングブームですから、色んなところから人が集まってきます。そういう意味で、駅前で、僕等も場所探すとき、駅から歩いて行けるかとか、そういったところから、探しますんで、そういった意味で、非常に駅前だし、あんだけ大きな会場も、この着替えとか置いておくところも以外と困るんですね。雨降ったらどうしようってときもありますんで。あんだけ大きな室内を使えるってことは、非常にそれも便利だし。

に加えてですね、余談かもしれないんですけど、当日、マラソン当日、レース自体は午前中で終わっちゃいますけど、アリーナから駅前の間に居酒屋とかありますよね。あの日は昼間っからやっているんですね。呼び込みさんもうまいもんで、ビールありますよとか言うと、行っちゃうんですね。我々ね。ある意味経済効果強いんですよ。ですから、イベントは、場所、アクセスというのを含めて、考えるべきではないかと思うのと、やはり、駅前のスーパーアリーナは非常に、もっと有効に使ってほしいなと思いますんで、是非またそういった企画をしてほしいと思いますんで、どうぞよろしくお願いします。

所管局 ご提案ありがとうございます。

コーディネーター はい。ありがとうございます。そろそろ、まだ、発言していない方い

らっしゃれば、挙手お願いしたいなと思います。モニターさんの中で、もしなければ、これまでの方で結構ですが。後ろいませんね。はい。それでは、そちらの方。ワイシャツの方。

市民モニター すいません。さいたま市っていったら、絶対サッカーだと思うんですけど、経済効果かなり生まれると思うし、来年ぐらいまで、確か、国際サッカーはないんですよね。オーストラリア戦が来年5月か6月ぐらいあると思いますけど。できたら、もっと頑張っって、国際試合を開催してもらえるように、そのほうが経済効果もあるし、あと、埼玉スタジアムの周りは本当に何もなくて、出来るだけ、色んなお店を開いて、それで、お客さんがお金を落としていけるような、そういう状況を作ったほうがいいと思うんですけど、交通の便もかなり不便ですので、そういったところも、インフラの整備もできたらしたほうが、もっとPRどころか、さいたま市というものを知ってもらえると思うんですけども、その辺は、今後、どのように考えるか教えていただきたいです。はい。

所管局 サッカーは、さいたま市はサッカーのまちということで、先程ご紹介しましたように、この夏にはですね、女子サッカーのアンダー20ワールドカップも開催されますし、年末には、女子サッカーの全国選手権の準決勝、決勝が、開催されることも報道でされたところでございますので、サッカーにはですね、女子サッカーの聖地づくりという方向性もありますので、積極的に取り組んでいきたいということと、それから、埼玉スタジアムの周りに、今のところ、まだ、あそこは、まちづくりをやっているところでございますので、これから、まちづくりが進んでくれるといいなというふうには、私共思っておりますけれども。そうですね、そこに期待したいというふうに思っております。はい。以上でございます。

コーディネーター それではですね、他よろしいですか。はい。では、市民モニターの皆さん、ありがとうございました。モニターの皆様の意見シート回収していただきますので、次回の見直し案の作成の参考にさせていただきます。それでは、市民委員の皆様の方のですね、意見、いくつか発表させていただきます。

まず、スポーツだけでなく、さいたま市の観光の繋がりが、少しないような気がする。もう少し、何か、強力なスポットがほしい。観光スポットの繋がりがほしいです。次に、箱もの施設に頼らない、さいたま市らしいイベントを作り出してほしい。道路の狭さで、マラソン、自転車イベントなどを行う。観光スポットは、少なくとも長い期間実施していれば定着するはず。それから、スポーツコミッション事業を市民に大々的にアピールしていただきたいと思います。何だか、市役所の皆さんだけが盛り上がっている感じがします。市民全員が盛り上がっていくことで、受け入れ態勢もでき、経済効果も期待できるものと

思います。また、県外、海外の人に来てもらうことももちろんですが、市民の人に、まず地元よりお金を落としていくように、イベントは事業で誘致したイベントなんだよということを市民にアピールしてほしい。論点は違うと思いますが、誘致することで、施設の設備が充実されたり、経済効果が高まると思い、よいことだと思えます。しかし、末端のスポーツをする市民としては、去年は使用できた設備の整った体育館が使用出来なくなったり、今年は古い施設で行うことが多くなっています。先日開催された市民大会では、空調設備のない体育館での試合になり、熱中症になった人もいます。古い施設を使用するなら、使用環境の見直しをし、対策もしてほしいと思えます。経済効果のために、市民の楽しみ、健康増進に支障が出ていることも知ってほしい。といったような意見がございました。それではですね、以上で、事業番号の5、スポーツコミッション事業の議論を終了いたします。

(了)